



生きる力を豊かにたくましく あいほうぶだより

NO. 269 責任者 仁木 悟

今年も開催！タケノコ掘り

あいほうぶ吹田、この季節の恒例行事といえば春のタケノコ掘り。あいほうぶ吹田横の万博公園の竹林では多くのタケノコが土の上に顔を出し、あいほうぶの利用者が来るのを今か今かと待ち構えています。普段はなかなか竹林に入ることが難しい大きな車椅子の方も「野と森の遊び文化協会」の皆さんの協力をいただき、竹林の中へ「よししょよししょ」と連れていっていただきました。採れたてのタケノコを手にし、それぞれ記念撮影。春



を感じる事ができました。「給食でタケノコご飯食べたね」「タケノコの香りがするかな～」と話をしながら、多くの利用者の皆さんが参加して、タケノコ掘りを楽しむことができました。

こうして季節のイベントを楽しむことができるのも「野と森の遊び文化協会」の皆さんのおかげです。今回も声をかけていただき、ありがとうございました。

新たな班に～新年度のつどい～



春は出会いと別れの季節です。あいほうぶ吹田の生活介護事業も4月から新体制になりました。「スプリング班」・「サマー班」・「オータム班」の3つの班

が「みらくる」・「アイビー」の2つの班に生まれ変わりました。4月1日には多目的ホールに全員集まって新しい班の利用者メンバーの紹介や他事業所から新たに異動してきたスタッフ紹介をして、新たに出会えた喜びを皆で分かち合い、新年度がスタートしました。

これからの季節、特に春先はあいほうぶ吹田周辺の花壇には色とりどりの花が咲き誇り、木々の新緑に包み込まれます。館内には休憩スペースもありますのでぜひ散歩などで気軽にお立ち寄りください。新たな季節が始まり、地域の皆様との新たな出会いにもワクワクしている今日このごろです。今後ともよろしくお願い致します。

竹見台中学校の皆さん ありがとう



竹見台中学校の「花いっぱいプロジェクト」で12月に苗をいただき、あいほうぶの花壇に植えた「キンセンカ」「スノーランド」。現在は花を咲かせて花壇を彩っています。「スノーランド」は以前より利用者さんと一緒に育てたことがあり、冬にはまだ小さな苗も春には大きくなる事は分かっていました。しかし「キンセンカ」は育てたことが無く、冬にいただいた苗を花壇に植えましたが、「上手く育てられるかな」と不安でいっぱいでした。菜っ葉の様なすぐに倒れてしまいそうな頼りない姿でしたが、茶色くなった葉を利用者さんと取り除き水をあげながら、大切に育ててきました。それが徐々に暖かくなり、4月に入るとしっかりとした葉になり立派な花を咲かせてくれました。頂いた「スカビオサ」は小さいうちはポッドで育てて大きくなったら花壇へ植えようと思います。これからも竹見台中学校の皆さんと「花いっぱいプロジェクト」を通じて

交流ができたらいいいねと利用者の皆さんも楽しみにしています。花を育てる事で多くの地域の方に「あいほうぶ吹田」を知ってもらえることが私達の願いです。



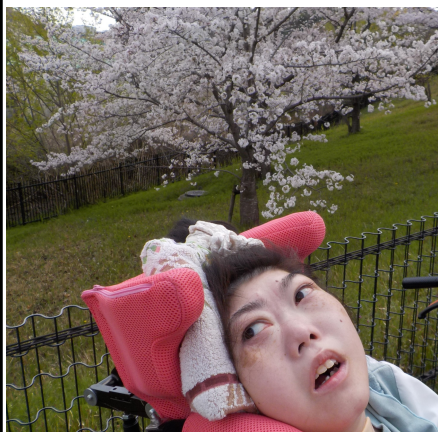
まだ寒い中、利用者の皆さんが
花壇に植えてくれました



スノーランド（上）と
キンセンカ



桜満開！ 小鳥たちも熱烈歓迎！



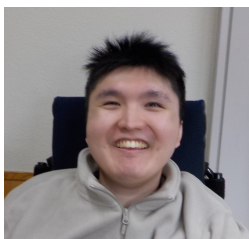
4月初旬に、あいほうぶ吹田の近所に咲いている桜を見に行きました。天気も良く気持ちのよい中でのお花見。風に揺られた桜の花びらが桜吹雪となって目の前をひらひらと舞い、その光景に利用者の皆さんも目をみはったり、笑みがこぼれたりしてました。ウグイスの綺麗な音色をはじめ、さまざまな鳥の鳴き声が次々に聴こえる様子は、まるであいほうぶ吹田の利用者さんを歓迎してくれているかのようでした。



綺麗な桜を見て皆さんも笑顔

一人暮らしの扉を開けて

あいほうぷの利用者の中でも、若い中村さんが、家族から離れて、一人暮らしをする事を決意されました。その彼が、長い間暮らしを共にした家族を離れる事になった経緯やその時の気持ちをここで定期的に連載していきます。



手足に力を入れにくくなる障がいの為、車椅子で生活しています。家の中での移動も家族の介助を必要としています。その事が常に頭の片隅にありました。ある時、相談支援専門員がモニタリングで一人暮らしを薦めてくれました。その時に、改めて心の中にあった「親にできるだけ負担をかけたくない」や「介護で怪我をさせたくない」という思いを明らかにできました。

その意向を伝えた後すぐに、相談支援専門員

が市役所の方と一緒に来てくれ、一人暮らしについて、話をしてくれました。そしてその話し合いの中でグループホームの事も提案として挙げてもらいましたが、ヘルパーが入りにくい事もあると聞きました。また、一人暮らしの方が自由な事もあると思い、部屋を借りて、一人暮らしをすることに決めました。

家を出ると決めてから、色々新たに知る事がありました。府営住宅に住むためには、応募して抽選で選んでももらわないといけない事や24時間対応してくれる重度障がい者の為の訪問ヘルパーがある事等、一つひとつ勉強になっています。

一度、抽選で落選しましたが、二度目の挑戦で、吹田市内の府営住宅に住める事が決まりました。少し諦めかけていただけに、本当に嬉しく思いました。これから、まだまだ初めて経験する事があると思います。困難もあると思いますが、前向きに進んでいきたいと思っています。



ボランティアさん 大募集！！



あいほうぷ吹田はご承知の通り、20年以上地域の方に支えられて活動してきました。ボランティアのみなさんの支援の力は大きく、多くの障害のある利用者が日々の活動を助けていただいています。ボランティアさんの参加していただける場面は多岐にわたり、特技を活かして活躍していただけます。

- ◆「喫茶ボランティア」
- ◆「食事介助ボランティア」
- ◆「班ボランティア」

ロビー喫茶で珈琲や紅茶の提供
食事介助
班の中での利用者の活動のお手伝い

他にも、楽器演奏、マジック披露など趣味を活かして活躍していただけます。

吹田市立市民公益活動センター(ラコルタ)の『ぶちボラ』プログラムより
お試しでボランティア体験をしていただくことも可能です♪



メール aihoupujimu@gmail.com

電話 06-6816-6895

ボランティア担当 安達

プール・介助浴室を開放しています

土曜日、日曜日はあいほうぶ吹田の温水プールと介助浴室を一般の方に開放しています。

プールや入浴は、リハビリにも効果的です。ぜひご利用ください。

利用できる方：吹田市内にお住まいの障がい者手帳を

お持ちの18歳以上の方とその介助者。

プールは18歳未満の方も利用できますが、18歳以上の介助者の同伴が必要です。

利用時間：10時～16時

注意事項

プール利用について

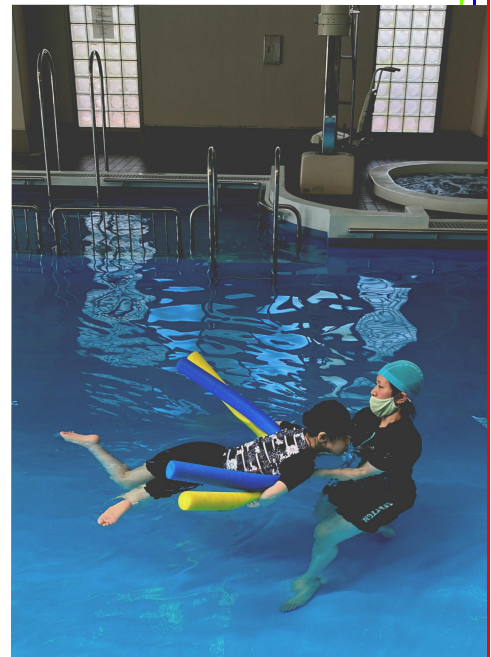
- ・混雑を避ける為に定員を設けています。
- ・スイミングキャップが必要です。
- ・受付で障がい者手帳を提示し、手続きをしてください。
- ・観覧者はマスクをして、廊下からご覧ください。
- ・採暖室と更衣室(シャワー室を含む)の利用は原則1組に限ります。

介助浴室利用について

・介助浴室の利用は、予約制で、原則前日の17時までです。

・原則1時間に1組。

*ボディソープ、シャンプーはご持参ください。



多目的ホール・会議室が 利用できます

(土日9時～17時)

障がい者団体あるいはその支援団体、ボランティア団体などの活動の場、交流の場として利用できます。(事前登録が必要)

編集後記

桜が散り、一気に汗ばむ季節になりました。春の気持ちいい期間が短くなったと思うのは私だけでしょうか。温暖化と言われるようになって、久しいですが、同じぐらい、経済が低迷し出して、時間が経ったように思います。実際、私自身はバブル経済をあまり体験していないため、「こんなものかな?」と思わなくもないのですが。

円安の影響で、外国の旅行者を街中でよく見かけます。先日、京都でバスに乗ると、明らかに日本人の乗客の方が少なかったため、異国に来たような気分になりました。

経済の低迷や温暖化等暗くなる様なニュースが多い中、異国の方が増える事が明るい未来に繋がれると思います。Y



吹田市立障害者支援交流センター あいほうぶ吹田

(吹田市指定管理者 社会福祉法人 さつき福祉会)

吹田市千里万博公園12-27

生活介護事業 06-6816-6895 短期入所事業 06-6816-6897

メール i-staff@s5.dion.ne.jp ファックス 06-6816-6898

ホームページ <http://satuki-fuku.sakura.ne.jp/ihope/index.htm>